

【写】

31 台 監 第 58 号  
令和 2 年 3 月 27 日

殿

台東区 監 査 委 員

元 田 秀 治  
大 場 賢 一  
中 澤 史 夫

令和元年度工事監査の結果について（報告）

地方自治法第199条第5項の規定に基づき、標記監査を実施しましたので、この結果を同法第199条第9項の規定により、別紙のとおり報告いたします。

## 1. 監査期間

令和元年12月27日(金) ~ 令和2年3月27日(金)

## 2. 監査対象部課

総務部 施設課

## 3. 監査対象工事

## (1) 蔵前小学校改築工事 [書面監査及び実地監査]

(電気設備工事、空調設備工事、給排水設備工事、昇降機設備工事、  
工事監理業務委託)

## (2) 黒門小学校大規模改修工事 [書面監査]

(電気設備工事、空調等設備工事、昇降機設備工事、環境整備工事)

## 4. 監査の範囲

当該工事にかかる財務に関する事務の執行状況及び工事の施工状況

## 5. 監査の方法

監査委員は関係課長から対象工事の施工状況等について説明を聴取し、質疑応答を行うとともに、工事現場の実地調査を行った。

また、事務局職員は監査委員による監査に先立ち、関係課に工事関係書類の提出を求め、調査及び事情聴取等の予備監査を行った。

## 6. 確認した関係書類

起工書、設計図書、積算及び見積書、工事写真、諸検査結果報告書等

## 7. 監査の結果

提出された対象工事関係書類をもとに、工事が適法に合理性をもって施工されているか、予算の執行が適正かつ効率的に行われているかどうかについて、書面監査及び実地監査をしたところ、監査対象工事の2件ともおおむね良好に実施されたものと認められ、特に指摘・指示する事項はない。

しかしながら、軽微ではあるが、次の誤り等の事例があったので、口頭にて注意した。今後の適正、適切な事務執行に留意されたい。

## 【口頭注意事項】

- ・ 工事記録写真に写っている日付と横に書かれたコメントの日付が違うもの
- ・ 工事記録写真が不鮮明なもの
- ・ 設計図書の記載内容に軽微な誤りがあるもの
- ・ 起案文書に決裁日、施行日が記入されていないもの
- ・ 見積書に日付の無いもの
- ・ 完了図と現場で軽微な差異の有るもの

8. 実地監査実施日及び監査委員の主な質疑応答事項

監査対象部課	総務部 施設課
実地監査対象工事	蔵前小学校改築工事
監査実施日	令和2年2月18日(火)
主な質疑応答 ( Q:監査委員 A:施設課長等 )	
Q	工事監理業務は随意契約となっているが、設計段階の時は入札を掛けたのか。
A	設計は入札を行い業者を決定した。その設計をした業者が、設計の意図や学校要望について一番理解しているため、工事監理業務委託も随意契約で同じ業者に委託を行った。
Q	今回、災害対策の面で色々な事を行っているが、発電機が72時間稼働できるのは、照明とかを使った場合が72時間で、空調は入らないのか。
A	非常用自家発電設備を稼働させた場合に運転する設備に空調設備は入らず、照明と一部電灯・コンセントになっています。ただ、避難所となるアリーナ系統のガスエンジン・ヒートポンプ・エアコンは、電源が遮断された場合でも、都市ガスが遮断されなければ、エアコンを駆動することができるような機器を採用している。
Q	オープンスペースも広いし、オレンジホール、メディアセンター、ふれあいホールという形で、3階のアリーナもそうだが、相当ゆとりのある空間が実現して素晴らしいと思う。主に学校側の要望が実現したという感じなのか。
A	元々ここに建っていた精華小学校の造り方が、教室を南面に置き、ある程度オープンスペースを確保しているという形であった。敷地の大きさが変わらない中で、子ども達が比較的ゆったりと過ごせる空間を確保していきたいという学校側の要望であったが、必要な教室数は確保しなければならないし、それ以外に特別教室も配置しなければならない。学校として必要な教室が沢山あるが、うまく配置して、スペースを設けて、ゆとりのある学校は出来ないかを検討し、設計を行った。その結果、要望に合った非常に広いスペースを生むことができた。
監査委員意見	
聞きしに勝る素晴らしい学校で、コンクールに出しても恥ずかしくないと思える学校だ。南側に公園があるということで、明るさが確保されて開放感もあるし、全てにおいて最高の小学校であると実感した。この素晴らしい校舎を存分に利用して、素晴らしい教育効果をあげて頂きたい。	

## 9. 工 事 概 要

### (1) 蔵前小学校改築工事

蔵前小学校は児童数の増加に伴う、教室数不足を解消するため、改築工事による施設整備を行った。外観は蔵をモチーフにした庇や和をイメージしたルーバーを設け、誰もが親しみをもてる外観とした。また、エコスクール計画として自然エネルギーの活用（太陽光発電、地中熱利用、雨水利用）や、木材の積極利用、見えやすい壁面緑化、発電量モニターを設置することで環境啓発に配慮した。災害対策として受変電設備と非常用発電機は屋上に設置し、体育館等の照明は非常用発電機からの電源供給で、災害時に72時間稼働できる。また、備蓄倉庫を1階及び3階に配置した。

### (2) 黒門小学校大規模改修工事

黒門小学校は震災復興小学校として昭和5年に竣工した。築80年以上経過し、施設の老朽化に伴い、竣工当初のデザインを残すなど歴史的価値を維持しつつ、電気、空調、給排水等の基幹設備の更新、及びバリアフリー対応の改修工事、教育環境の整備を中心とした改修工事を行った。

外観は、露出配管を最小限にし、既存の外観のデザインを強調させる工夫をすると共に、現状の体育館棟と校舎棟の異なる外壁の色調を統一した。内観は、廊下の特徴的なアーチ型の梁を美しく魅せるため、外観同様に設備配管を教室の天井内に隠蔽する計画とした。LED照明器具への更新や太陽光発電設備の設置等、省エネルギーに配慮した設備の導入を行った。また、だれでもトイレの新設やエレベーターの設置といったバリアフリー対応の改修も行った。

## 10. ま と め

本年度の工事監査は、総務部施設課を対象として実施したものである。

学校としては約30年振りの改築工事となる蔵前小学校改築工事については、限られた敷地で必要な教室数を確保しなければならない中で、教室を南側に置き、特別教室をうまく配置して、残った部分をオープンスペースとして利用できるように工夫されている。省エネや防災についても配慮されており、明るくて十分な教育環境が整えられていた。この素晴らしい校舎を活用して、素晴らしい教育効果をあげて頂きたい。

黒門小学校大規模改修工事については、施設の老朽化対策を図るとともに、震災復興建物の当時の面影を復元しつつ、生徒たちが安心して学び生活できる学習環境の整備がなされているものと認められる。居ながら工事でありながら、電気や配管の切り回し方を工夫したり、授業時間中の音出し作業を最低限に努めるなど、生徒の教育環境確保に十分な配慮もなされていた。新たに生まれ変わった校舎が学業や地域の人々に活用され、引き続き生徒が充実した学校生活を送れるよう教育活動に努められたい。

今後の施設整備にあたっては、これらの工事で得られた知識や経験を蓄積し、活かしていくことが重要であると考え。区有施設に求められる様々なニーズに的確に応え、経済性、安全性、環境性等の確保に十分配慮し、区民福祉の向上に資する施設整備が不断に取り組みされることを望むものである。